

L'aile d'Howl



全日本インカレが無事閉幕！
実業団、高校生に続き、大学生も
花巻で燃えてくれましたよ☆

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝説)】

2011年11月号



1

湯沢 JC カップにて男子3位、女子準優勝の栄冠！

10月15～16日、第4回目となる湯沢 JC カップが秋田県湯沢市総合体育館にて開催されました。2007年秋田わか杉国体のハンドボール会場となった湯沢市。秋田県ハンドボールのメッカであるこの地でハンドボールの火を絶やしてはなるまいと、地元青年会議所の方が始めたこのプライベートカップもついに4年目を迎えました。東北各県から参加チームは集まる中、岩手県からは花巻クラブジュニアとリトルハンドさんが出場。開会式には日本ハンドボール協会強化本部長の蒲生晴明氏も駆けつけ、子どもたちの健闘を祈りました。まずは男子ですが、昨年の大会で大敗を喫した大曲ハンド(秋田)との緒戦。昨年の悔しさをバネに、20-13で勝利し、準決勝に駒を進めます。準決勝では、尾花沢ハンド A チーム(山形県)と対戦。小柄ながらスピードがある選手が多く、何度も DF から速攻の形に持っていかれてしまいました。気づけば 43-13 での大敗(泣)。今度は新たなリベンジの目標が出来た花巻クラブジュニアの面々でした。翌日の3位決定戦では、昨日の敗北から落ち着きを取り戻し、終始リードを保った試合運びができ、20-9でゲームセット。地元・湯沢市ハンド(秋田)に勝利し、嬉しい第3位を獲得しました。出場チームは少ないものの、立派な第3位に自信をつけてほしいものです。



女子は秋田県の玉野スキースポ少との緒戦を飾り、昨年圧倒的な強さを見せた富谷 JHC(宮城県)と準決勝で対戦しますが、16-6で退け、なんと決勝に進出します。その決勝戦、緊張からかいつもの豪快なプレーが出ません。中村宥希選手、高橋陽実選手の両6年生がチームを引っ張りますが、なかなか得点が入らない展開となり、6-14で試合終了。尾花沢ハンド(山形県)が男女アベック優勝となり、残念ながら念願の東北大会優勝はなりませんでしたが、決勝の舞台に立てたことは子どもたちにとっても非常に有意義な体験だったと思います。準優勝おめでとう！



閉会式は、大会中の写真や映像を BGM と共にフラッシュで流し、「東北に力を！」という力強く感動的なメッセージ、そして、まるで日本リーグプレーオフの決勝のような演出で閉幕。小学生の大会ではなかなか見ることができない演出に子どもたちも大興奮の様子でした。

今回の大会は、湯沢市青年会議所の皆さんや東北各県の指導者の皆さんとも交流させていただく機会を得ることができ、演出の面でも非常に素晴らしい大会でした。紙面を借りて関係者の皆様に御礼申し上げます。

ありがとうございました！

2

全日本インカレにて激闘の展開！ついにインカレが花巻に来た！

インターハイに続いてついにインカレも花巻にやってきた！大学生の全国大会となる高松宮記念杯男子第54回、女子第47回全日本学生ハンドボール選手権大会(通称「全日本インカレ」)が11月1日～6日まで、花巻

市総合体育館を中心に、花巻市内の各会場で開催されました。地元から男女アベック出場を果たした富士大学の高坂準人男子キャプテン、山重麻衣女子キャプテンによる選手宣誓のもと、各学連ブロックを勝ち抜いた強豪校が学生の頂点を目指して熱戦を展開しました。

今回の全日本インカレですが、特に岩手県出身選手が多数名を連ねていることも注目のひとつ！男子は10チーム32名、女子は8チーム18名、またその中でも主将を務める選手が6名おり、岩手県から巣立った選手が各大学でも主力となって活躍していることは非常に嬉しいことです！



ちなみに、花巻クラブジュニアOBの森田隆亮選手(富士大3年)と森田啓亮選手(早稲田大1年)は兄弟揃ってのインカレ出場となりました！

さて、男子の部ですが、圧倒的な強さを誇る日本体育大と、同じく関東学生リーグの覇者早稲田大が順当に駒を進め、決勝に進出します。前述の森田啓亮選手は途中交代で1-5DFのトップを務め、長身を活かしたパスカットなどで活躍を見せます。また、主将でセンターを務める馬場佑貴選手(黒石野中→不来方高)もうまく試合をコントロールし、地元での優勝に大きく前進します。また、同じく不来方高出身の佐々木純也キャプテン率いる明治大学は、中部大、中京大の東海学連チームを共に1点差で破り、ついに準決勝まで勝ち進みました。一方、関東学連の牙城を崩すべく、関西学連ブロック優勝、そして緒戦で地元・富士大学を破った関西大学がベスト4に名乗りを上げました。

その混戦を勝ち上がったのはやはり

関東学連のツートップ、日体大と早稲田大。詰め掛けた大勢の観客の中、まさに両者一歩も譲らない試合を展開し、前半を16-16の同点で折り返すと、後半に入っても一進一退の戦い。後半最後、キャプテンで主砲の信太弘樹選手がミドルシュートで意地を見せ、日体大が36-33の3点差で逃げ切り、花巻の地で栄冠を手に入れました。素晴らしい試合で会場を興奮の渦に巻き込んだ両チームには、惜しみない拍手が送られました。なお、早稲田大キャプテンの馬場佑貴選手は優秀選手に選出されました。



一方女子の部。不来方高出身のエース吉田起子選手率いる東京女子体育大学、そして同じく盛岡市出身で年代別強化指定選手である安部千夏選手(リトルハンドOG)擁する筑波大学に注目が集まりますが、今年の子は西高東低の模様。関西大学を破った日体大が準決勝に進んだのを除くと、東女体大を破った武庫川女子大、筑波大に勝利した大阪体育大、そして国士舘大を下した大阪教育大と、関西勢がベスト4を占めました。そして決勝に駒を進めたのは大阪体育大と大阪教育大の2校。なんと東北の地で大阪対決が実現してしまいました。かつて花巻での全国高校選抜大会に出場した四天王寺高(大阪)や洛北高(京都)の主要選手をお互いに擁し、こちらもロースコアな接戦を展開します。

この接戦を制したのは大阪体育大。かつて洛北高を率いて全国の頂点に立った楠本繁生監督は、洛北での教え子を含むメンバーを率い、見事に大学の舞台でも優勝を飾りました。



L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2011年11月号
2011年11月25日発行

発行:花巻市ハンドボール協会